別記（一）

浅田屋工場罷業に際して
中野町民諸君に聲明す

去る一月二十四日中野町浅田屋工場主は事業不振の名目にて加藤支部長外十七名に解雇を申渡した。全従業員は日本労働組合同盟関東合同労働組合中野支部を組織して居ったので、本部との協議の結果本部員小松屋兎太郎氏が二十五日工場主を會見したが工場主側は一年間は醤油かで諸味に原料が仕込んであるので高圧的な解雇者を復職させることは出来ない「カッテニセイ」と拒絶したのである。全従業員は交渉決裂を聞くや直ちに解雇者復職歎願従業員大會を開催して満場一致で労働組合圧迫、不当なる解雇に絶對に反對すると決議して、工場主に交渉を進めたが、「ガムとヤラナ」工場主は之れ又はねつけたので二十八日午後二時ストライキを宣言して工場から一せいに引挙げて中野支部事務所に争議団を編成した。頑迷！無智！私怨的な浅田工場主に戰端を開始したのである。浅田政工場主が突然十八名を解雇した根本理由は労働組合切崩しと壊滅悪策であったのである。浅田政吉（工場主）は好景気のとき醤油一本九升詰十二円位で賣って、其の反面労働者に對しては飯は「南きん」をかずは「ひじき」位で外債金十七圓で職工を酷使して居ったのである。それで彼工場主がもうけた金高は今日では何千萬円（不動産も入れて）だ、今日の浅政をあらしめたのは當然労働者が働いたからである。此處一年か二年不景気だからと云ふ口實の元に血も涙もなく四十年こ五十年も働いた恩ある人の首を切るのである、なんの遠慮もなく。それた十年も二十年も働いた此度の解雇者を百や五十圓の金で追いだし解雇を申渡された人達は、なんで生きていけ様か、妻子をかかえて甚れに歎願した従業員に對して暴力団を雇入れてをりて威赫せしむべく準備して居るのである。かかる理も非もなき浅田工場主は正當なる従業員の願望を聞き入れるではなく、かえって蹂躙して居る暴虐に對して吾等は断じて服する事は出来ない。吾等は社會正義のため、生活安定、生存權のため吾等の同志の総動員を行って工場主の暴戻に對して争議団本部の一角から正義人道の警鐘を乱打して最後迄戰